

ハクビシンの生態と対策

ハクビシンの名のとおり、鼻筋に大きな白い帯がとおっています。家ネコぐらいの大きさのジャコウネコ科の動物で、木登りが得意です。バランス感覚にも優れていて、電線渡りもお手のもの。樹上で生活することが多く、穴掘りは苦手です。

生態

- 食性** 果実が中心の雑食性で、果実の他に昆虫類、ミミズ、小魚、トカゲ、ネズミなどを捕食します。
- 行動** 夜行性で、昼間はタヌキやアライグマが掘った巣穴を利用し、夜になると里山や人家の周辺に出没します。また、高さ1m、幅1.2mくらいはジャンプして乗り越えられる能力をもっています。
- 繁殖** 年間を通して発情・出産します。妊娠期間はおよそ2ヶ月ほど。性成熟は2年ほどで、1度におよそ1～4頭を出産します。野生での寿命は7～10年ほどではないかと考えられています。

農作物だけじゃない！

家屋にも大きな被害をもたらすハクビシン

神社や木造の集会所、廃校、空き家など、人の気配が少ない建物はハクビシンやアライグマにとって、安全なねぐら。建物に侵入するときに、床下の通風口を壊す、外壁を破く、出窓と壁の隙間を広げる、天井裏や壁の間に入れてある断熱材を引きはがすなど、建物を傷める行動をします。

ハクビシンは、高いところが得意で、狭い隙間にもぐり込む能力に優れています。そのため、雨風をしのごことができ、外敵にも狙われにくく、子育てしやすい家屋の天井裏をねぐらにするケースが多いのです。

ねぐらとなった天井裏や壁の隙間、床下等は、おびただしい量の糞や尿で汚されます。これによって、天井にシミができる、天井が腐って落ちる、悪臭に悩まされるといった被害が生じるのです。そのほかにも、夜中に動き回る物音や鳴き声に悩まされたり、ノミやダニが発生したり、ゴミを食べ散らかされたりと、多くの問題が出てきます。

家屋の侵入口としてよく使われるのは、基礎コンクリートの通風口、屋根の重なりあっている部分、軒天井の換気口などです。侵入口となりそうな穴をふさぎ、屋根に登れるような庭木の枝も切り落としておきましょう。



被害防止のためのワンポイント・アドバイス

1 家に侵入させない！

立木をつたって入らないように枝をはらいましょう。



2 ねぐらをつくらせない

ハクビシンはエサ場の近くにねぐらをつくります。よく被害を受ける周辺の建物で天井裏や壁のすき間などを点検してみましょう。寺社なども含め、建物のすき間をなくして、ねぐらをつくらせないようにしましょう。また、空家や空納屋はねぐらになりやすいため、地域ぐるみで話しあい、空家・空納屋をなるべく残さないようにしましょう。

こんなサインに要注意！

① 足跡

足跡だけでは獣種を特定できないことが多いので、他の痕跡とあわせて総合的に判断してください。

<p>ハクビシン</p> <p>指5本で短い</p>	<p>タヌキ</p> <p>指4本で犬に似ている</p>	<p>アナグマ</p> <p>指が短く、爪が長い</p>	<p>ヌートリア</p> <p>4本指。カモに似た水かきと爪がある</p>
-----------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	--

こんなサインに要注意！

② 糞

糞も被害獣を特定するための重要なサインです。

<p>ハクビシン</p> <p>エサにより色・形は異なる</p>	<p>タヌキ</p> <p>糞粒の山になる</p>	<p>アナグマ</p> <p>ため糞は小規模テカテカしている</p>	<p>アライグマ</p> <p>ため糞しない 5センチ程度でラッカセイの形</p>
---	----------------------------------	---	--

※ため糞：同じ場所に糞をする習性